

事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
政策名	〈I〉みんなで築くまち〈協働・行政経営〉	所属G	チャレンジ創生G	課長名	熱田勇二
施策名	〈01〉市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	須山雄介	電話番号	0854-40-1011
目的	対 象 市民	意 図	まちづくりの課題を主体的に解決する。	(内線)	2333
基本事業名	〈002〉まちづくりの人材確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 1 0 0 1 項 目 中事業 中事業名 0 5 3 5 2 1	企画総務管理事業 コミュニティキャンパス推進事業	
目的	対 象 活動している市民	意 図	活動のリーダー・担い手を確保する。		

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (27年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 大学機関や地域、市内で活動するNPO等と連携し、大学生の学びの場となる「雲南コミュニティキャンパス」(通称:U.C.C)を開校して、地域等でのフィールドワークやインターンシッププログラムを通じて、大学生を雲南市の地域課題を解決する課題解決人材として育成するとともに、社会増につなげる。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	28年度実績(28年度に行った主な活動) ・スタートアップ合宿(開校式)の開催 ・インターンシップ、フィールドワークプログラムの実施 ・成果報告会の開催 ・平成29年度計画の作成	29年度計画(29年度に計画する主な活動) ・スタートアップ合宿(開校式)の開催 ・インターンシップ、フィールドワークプログラムプログラムの実施 ・成果報告会の開催 ・平成30年度計画の作成			
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	ア 事業ビジョンの策定	式		1	1	1
	イ インターンプログラム等の実施	回		5	5	10
	ウ 推進委員会の開催	回		0	2	2
	エ 全体会等の開催(開校式・成果報告等)	0		0	2	2

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	① 市民 ② 学生	ア 人口(推計人口)	人	39,472	38,990	38,506	38,477
		イ 大学生数(文科省調査)	千人	2,856	2,860	未公表	
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	① 積極的に学生と交流する。 ② 雲南市の地域課題を知り、地域等と解決に向け取り組みを行う。	ア UCCに参加をきっかけにUターンした雲南出身の学生数	人		0	0	2
		イ UCCに参加をきっかけにUターンした学生数	人		0	0	2
		ウ UCCをきっかけに市内の地域活動に複数回参画した学生数	人		15	30	30

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)
・旅費 332千円 ・需用費(消耗品費) 5千円 ・役務費(手数料) 150千円 ・謝礼金 306千円 ・使用料 527千円 ・委託費(推進支援事業) 6,235千円	財源内訳 国庫支出金 千円 県支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円			1,253	7,218	4,260
合計 7,555千円	事業費計(A)	千円		1,253	7,555	8,840
	正規職員従事人数	人		2	2	
	延べ業務時間	時間		1,000	1,000	
	人件費計(B)	千円		3,914	3,967	
	トータルコスト(A)+(B)	千円		5,167	11,522	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
総合戦略の重点プロジェクトの1つとして位置づけ、事業推進を図っている。 また、これまで本市に関わった学生から、他大学の学生とのネットワークや学び合いの環境を求める声や、雲南市で更に活動したい意思を持った学生から拠点づくりをしたい声がある。	H28年度より本格的に実施している。 実施以前(H27)より雲南市での活動に複数回参加する学生の人数は倍増しているが、学生がより主体性をもち、長期間活動できるプログラムを実施する必要がある。	これまで積極的に大学生を受け入れた地域から、今後も学生の意見等を取り入れ地域課題解決に取り組みたい要望がある。また、大学からも地域内での活動を推進することにより、学生の育成を進めたい要望がある。 また、市内企業からインターンシッププログラムを求める要望もある。

事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	市内の取り組みに複数回参加する学生(交流学生)の増加に寄与しているが、学生のUターンを生み出すことが出来ていない。市内企業等との連携を深め、Uターンに向けた取り組みを強化する必要がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	大学機関のない本市において、学生の大半は高校卒業とともに本市から離れてしまう。本事業を廃止すれば、学生を課題解決人材として育成する機会を失い、子ども×若者×大人のチャレンジの連鎖の推進に影響がある。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		大学連携事業
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	理由		平成29年度より事業統合。雲南コミュニティキャンパス参加学生と早稲田大学院生との協働による課題解決の推進を図りたい。
<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない				
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		学生をコーディネートするノウハウを市内(市役所、市内団体、企業、地域自主組織等)に蓄積することで委託費の削減余地がある。また、大学若しくは大学生から対価を獲得することにより、市の事業費負担の削減をめざす。
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		将来的に、本事業を市内のNPO等が自立的に実施できる体制へ移行を進めることにより、人件費の削減をめざす。
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由		市内の地域課題の解決を図り、市全体のまちづくりに寄与する事業であり、公平・公正である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
D 公平性	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
人口の社会増に寄与するため、市内企業等と連携して、学生の”出口”(受け皿)を確保していく必要がある。またインターンプログラム等の受入れ・実施に多くの時間や労力を割いているため、効率的な受入れ・実施体制を確立していく必要がある。				

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																								
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																							
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																							
<p>・大学生の育成と定着を意図し、学生へのアンケート調査などを行うとともに、学生の専攻や就業希望職種などのニーズに合ったプログラムを企画し、より効果的な事業になるよう事業改善を図りたい。</p> <p>・インターンプログラム等において、所管部局間の連携をより一層進めるとともに、事業推進体制に地域や大学機関等の参画を得ることにより、取組内容のレベルアップや認知度を高め、学生の定着につなげたい。</p> <p>・学生がより深く雲南市に関わり、かつ主体的に活動が出来るよう、プログラムの内容を改善、強化したい。</p>																										
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上	●																								
	維持			×																						
	低下		×	×																						
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																										